（別紙4）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4790300042		
法人名	社会福祉法人与勝福祉会		
事業所名	地域支援ホーム津堅いこいの家（認知症対応型共同生活介護事業所）		
所在地	うるま市勝連津堅1144番地		
自己評価作成日	平成24年11月8日	評価結果市町村受理日	平成25年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=4790300042-00&PrefCd=47&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　沖縄タイム・エージェント
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10－25　1F
訪問調査日	平成24年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

年をとっても、介護が必要になっても生まれた島でなじみの顔や島独特の言葉、かおりを感じながら暮らし続けたいという思いを受け止め、地域の方々との関係作りや関わりが持てるよう地域行事への積極的な参加をしている。学校行事への参加や学生との交流もあり世代間を超えた交流は、島ことばや遊具の伝承遊びなどを通して利用者の皆様の生きがい作りや自信にもつながっている。
地域のボランティアの協力も得ながら利用者の皆様が楽しく豊かに過ごせるよう支援に努め笑顔の絶えない施設作りに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

沖縄本島より船で30分程の「津堅島」にある事業所である。管理者、職員は島内高齢者全体の支援を目指し様々な活動を行っている。運営推進会議に、入居者、家族、行政職員、区長、校長先生、診療所医師、看護師、高齢者相談センター職員が参加し事業所や地域の課題等の検討や島内で行われる行事等の情報交換等を行っている。診療所スタッフとは定期的に交流し、インシュリン注射の必要な入居者支援で連携が図られたり、感染症予防について指導を受ける等良好な関係が築かれている。入居前の生活歴を把握し、在宅での生活リズムを事業所でも継続することの大切さを理解し個々の支援を行っている。毎朝の「生姜黒糖湯」の提供など細やかな配慮がある。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について、職員が地域密着型の意義や役割を理解したうえで、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう事業所独自の理念を掲げ意識づけしていくために毎朝唱和し実践につなげるよう日々取り組んでいる。	事業所理念に沿って、生まれ育った島での生活が継続出来るよう、地域と連携した事業所体制作りが行なわれている。管理者は、入居者が「その人らしく在る」事が出来る支援について場面に応じて理念を振り返り職員指導を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出の機会の少ない利用者の皆様が地域との関係が途切れないよう、日常的に地域の方々が施設に出入りしやすい雰囲気作りや区主催の諸行事へは積極的に参加している。	地域の方が、野菜を差し入れたり、野球や相撲を入居者と一緒に観るために事業所を訪れる等日常的な交流がある。中学生との交流学習で「戦争体験」を次世代へ繋げる取り組みも行われている。キャラバンメイトの資格を持つ職員が地域の介護予防教室で認知症講話を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解する為に、施設の職員が理解や支援方法を学び施設内で自主勉強会も行っている。実践経験を活かし家族会の集まりや地域交流会でも相談やアドバイス等も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催され、毎回行政代表や家族会代表、区長、校長先生、診療所医師、看護師、利用者代表、今回から高齢者相談センターの職員も交えて施設の現状や地域の情報や課題等も話し合われサービスの向上に努めている。	事業所の自己評価に記入された委員の参加のもと、台風で予定通り開催できない月もある中、年6回運営推進会議が開催されている。会議では、事業所の状況報告や、島内の感染症発生状況の把握、医師より健康管理のアドバイスを受ける等の機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスに関して市の窓口担当者に確認や現状を伝えながら事例に対し解決や改善が出来るよう日頃から連携をとり、協力関係を築く取り組みを行っている。（台風時の緊急避難、施設内のトイレの件など）	市担当者とは連絡を密に取り、生活保護世帯の金銭的な問題について、相談し改善に向けて連携し取り組んだ事例がある。台風により事業所敷地内の倒木被害に区長が中心となり環境整備を行う等協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束により、利用者の身体的、精神的苦痛について職員間で話しあい、マニュアルに基づき正しく理解に努め身体拘束をしないケアーの実践や廃止に向け取り組み中にある。	事業所として「身体拘束をしない」事をに明確にし入居時に家族に説明している。法人内「身体拘束委員会」へ参加し、「認知症」「身体拘束」等の勉強会を実施している。ベッド転落の危険にはベッドを低くして対応し、行動を止める言葉は使わない等身体拘束のないケアの実践を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は利用者への身体的、精神的虐待がないか注意を払い見逃しがないよう防止に努めると共に、高齢者虐待防止関連法について勉強会を持ち理解を深めるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内自主勉強会で日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には、契約の説明と、ご家族からの疑問点に答え十分な説明を行っている。解約時は行く先の支援をし決定後には解約をする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族との交流を持つ機会を増やし意見や要望を伝えやすい雰囲気作りを行っている。ご家族が本島に住んでおられる方は電話や面会時に聞き取りを行い運営に反映している。個別の連絡ノートの活用も行い面会時に活用されている。	入居者からは、「車に吊皮がないね」等の意見が聞かれ改善している。家族へ「いこいの家新聞」や、電話で入居者の近況を報告している。家族意見は電話や、運営推進会議時、家族会時に把握するようにしており、家族意見から歩行訓練用の平行棒を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、事業所内の職務会や法人全体での会議が行われ運営に関しての改善事項や検討する機会が設けられ運営に反映している。	職員の意見は毎日の申し送り時や、毎月の職務会、「気づきノート」等で把握している。職員意見から、骨粗鬆症の入居者の安全な体重測定の為に車イスに乗ったまま測定出来る体重計を購入している。職員は「行事」「広報」「環境美化」委員会で、それぞれの役割を果たしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	その場、その時規則、規定の見直しがあり職員の働きやすい環境になるよう又、向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修は採用時、新人研修やトレーニングを行っている。各職種の法人内外の研修の機会があり職員の資質の向上に向け積極的な取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や研修へ参加し、情報交換を行いサービス支援や質の向上に活かせるよう努めている。又、近隣の施設と連絡を取り情報交換も行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の利用者は、ご家族と施設見学や体験する機会を設け安心して馴染める雰囲気作りを行っている。利用者のニーズに答えられるよう本人を理解し、支援方法を話しあい安心を確保し本人が受け入れられるように関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時はご本人、ご家族の意向を確認し困っていることや、不安なことに耳を傾け支援している。又、面会時や電話等で連携を取りながら信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシートを基に、利用者や家族の意見を聴収し、意向や課題を見極め他のサービス利用も含め柔軟な対応に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者個々の出来ること、出来ないことを把握しお茶のパック詰めや、おしぼりたたみ、洗濯物たたみ、料理の下ごしらえなどの得意分野でお互いを支え合う関係作りが出来るよう環境つくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年中行事には、在宅でご家族と過ごせる機会を設けている。旧1日や15日にはご家族と連携をとり本人が安らぐ機会を設け、施設行事には準備への協力依頼や参加を呼びかけ、ご家族と共に利用者を支援する関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	島の伝統行事（浜下り、ウスデーク、カーウガン、区の運動会、敬老会、マータンコ）への参加や地域交流会への参加にて馴染の人との交流や馴染の場所との関係が途切れないよう支援作りが出来ている。	島の行事は馴染みの方との関係継続の重要な機会と捉え、年度初めに日程を把握している。重箱料理を作って浜下りに参加したり、敬老会へ入居者全員が参加出来るよう支援している。「うちなーロ語り」「ゆんたくボランティア」等を継続して受け入れ、馴染みの方々が事業所を訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員が情報を連携しうまく付き合う配慮や、テーブルでの座る位置など利用者が孤立しない配慮を行い、楽しく和やかな雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了しても気軽に話しかけ、施設行事や本島からの慰問など連絡し参加されている。サービス利用期間のみではなく台風など災害の後も訪問し経過を見守っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の支援の中でご本人の思いを、話しや表情からくみ取り、本人の意向の把握にも努めている。又、ご家族の面会時には情報を得るよう配慮に努めている。	入居者の思いは、日々の関わりの中で把握に努めている。水分摂取量の少ない入居者が、夜間黒糖と水分を摂る習慣があることがわかり、生活習慣に沿って支援し、水分摂取目標がクリアできた事例がある。「自宅に帰りたい」との希望に、家族と連携し週1回の帰宅を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を把握することはご本人を支えていく上で重要であり、本人やご家族から聴取している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	１人ひとりの生活歴やご家族からの聞き取りにて把握し、その人にあった1日の過ごし方やリズムを大事に、出来る事を継続出来る支援をしている。気づきノートや1日2回の申し送りにて状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は本人、ご家族の思いや希望を聞き取りし課題については看護、介護関係者全員で話しあい、長期目標や短期目標を設定し介護計画を策定している。	アセスメントは入居開始時のみでなく、状況の変化時その都度更新している。サービス担当者会議へは入居者、家族、職員必要時医師も参加している。モニタリングは毎月実施し、状態に応じて介護計画を変更している。介護計画作成時はケアマネから職員へ説明し、計画に沿った支援の実施に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	看護と介護の両面の個別の記録をし、検討する課題についてはケア一検討会議にて見直しを行い、職員間で情報を共有しながらの実践や介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時ご家族が対応できないときは職員が柔軟に対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の馴染の方々のゆんたくボランティアとのかかわりや、理容ボランティア、民謡ボランテイアとの関わりで豊かな暮らしや身だしなみなど資源を活用しながら暮らしを楽しむことが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の皆様が島の診療所を利用され、お互いの情報を提供しながら適切な受診が出来る配慮に努めている。	事業所の道向かいに島で唯一の医療機関である診療所があり、入居者全員のかかりつけ医となっている。状態の変化時にはその都度家族に連絡している。「感染所の予防について」の講話や定期的に診療所の研修医、医学生との交流があり連携は密である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個別の服薬管理や、健康状態、各測定値の変動等については毎日の申し送りにて報告が行われ、看護職は必要に応じ利用者が適切な受診が出来る支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療の必要性が発生した時、医療関係と連携を取り適切な処置が行われるよう調整すると共に、情報交換やご家族との調整を行っている。病院との関係作りは担当者会議や運営推進会議に医師や診療所の職員も参加され関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、施設の理念や方針、機能を十分理解頂けるよう説明を行い、医療機関と連携を取りながら支援を行っている。	重度化した場合や看取りの指針も整備されている。家族の希望があれば、事業所としては、医療行為がなければ診療所の医師と連携をとりながら行っている。入居者、家族とは契約時に意思を確認しているが繰り返しの確認や書面での確認はされていない。	事業所の状況の変化等も説明し、家族や本人が納得して安心できるよう随時の意向の確認に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内勉強会や地域で行われる消防職員による心肺蘇生法や応急手当の講習へも職員が参加している。マニュアルの読み合わせも行い実践できる体制に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ビデオを利用しての事前勉強会や夜間を想定し、避難訓練を行っている。地域の消防団やご家族、診療所の職員も参加しての協力体制が出来ている。災害に備え電灯や発電機、長期の船の欠航に備え食材の確保にも配慮を行っている。	夜間想定を含め、年2回島の消防団、診療所の職員等参加で避難訓練実施している。事前にマニュアルの習得や訓練時に防災機器の業者による機器の使い方の説明や煙探知器、スプリンクラー等の点検を行っている。事業所は津波時の島民の避難場所となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりのプライバシーの確保については度々、周知を行っている。職員の言葉かけや排泄時、入浴時も利用者の尊厳ある姿を大切にさりげなく対応する配慮に努めている。	入居者の意思を尊重したケアを心がけ、接遇や排泄ケアについて研修が実施されている。馴れ合いな言葉かけ、上から目線の言葉かけや島の言葉の使い方にも注意を払っている。個人記録も事務室の鍵の掛かる棚で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中では、利用者の意志を尊重し自己決定を促すよう生活支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりのその日の生活リズムを把握し本人の気持ちを尊重して支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全居室に鏡が備えられており、ご本人が身だしなみをチェック出来る環境作りをしている。眉カットや毛ぞりなども行い行事の時はお化粧やネイルなども行われ、おしやれに関心をもつよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事は利用者の皆様の最大の楽しみであり、ランチョンマットや器を工夫して楽しい食事が出来る雰囲気作りをしている。ごはんはおひつを利用し温かいご飯を利用者の皆様が配膳し、食材の下ごしらえや片付け等も職員と一緒に行なっている。	献立は法人の栄養士が立て、届けらた食材で3食事業所で作っている。島民から野菜、海草等の差し入れや裏の畑で収穫した野菜などは朝、夕の食材や楽しみとなっている。月1回のバイキングに使っている。入居者はもやしの髭取りや皮むき、下膳、片付けに参加、食事前、後の挨拶も入居者のリードで行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取はチェック表に毎日記録をし、職員全員が把握している。食事や水分の摂取量が1日の必要量クリアー出来ないときも情報を連携しながら代替え食やゼリーなどで摂れるよう工夫しながら支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔の清潔が保たれるように声掛けを行いながら口腔ケアを行っている。出来るところは本人が行い仕上げは職員が支援している。義歯は全員ポリデントを使用し、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケア会議で排泄の自立支援について話しあい、排泄チェック表を基に個別の排泄パターンを把握、利用者の皆様が昼はトイレ使用を行っている。日中は綿パンツ使用にて過ごされ自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を基に促し、日中は全員綿パンツで過ごし、トイレでの排泄を支援している。排泄について研修や個々の排泄介護方法等の話し合いも行われている。失敗した時は、ウォシュレットやシャワーで洗い清潔保持に努めている。健康管理の為、尿量測定（一名）を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の解消に向け、繊維の含んだ食べ物など栄養の管理上配慮が行われている。便秘にならないよう排泄の報告やチェックシートの活用がある。日常プログラムにおいては、適度な運動や水分摂取に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人希望にて行い、毎日入浴や時間帯なども考慮しながら行っている。	入浴は毎日でも可能で、シャワー浴である。「朝一番に入りたい」等時間は入居者の希望に沿って対応している。皮膚の弱い入居者にはやわらかいタオルやベビー石鹸、保湿クリームで保護している。入浴を拒否する場合は時間や職員を変え無理強いせず翌日に変更して行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の1日のリズムやその時の状況に応じてゆったりと休めるように配慮している。お部屋の適度な明るさや室温にも気配りをし、安心して気持ちよく休める環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理の出来ない利用者には、確実に手渡しにて行い飲み込みまで確認している。服薬の祭、薬の説明や用量についても理解に努めている。症状の変化については職員の情報を基に医師と連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の特技を配慮した役割を行い、行事の時の挨拶やおやつ作りにて生活歴や力を活かしている。ドライブで気分転換を図り、毎月の誕生会は皆で祝い喜びや楽しみを味わう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、地域や学校行事への参加、郵便局や買い物の支援を行っている。島の行事への参加はご家族へ連絡をし協力しながら行っている。	月に2～3回は入居者の馴染の浜や畑、漁港等にドライブに出かけている。裏の畑に野菜の収穫や散歩、商店まで買い物に出かけている。島の伝統行事の参加や見学、学校の運動会の応援や玉入れの参加等は五感刺激の機会となっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が自立している方は、ご家族了解のもと本人が管理して頂き、一人ひとりの希望に応じ日用品が買い物できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの要望時、電話の代行や取次なども行っている。絵手紙にてご家族への暑中見舞いを送ったり、朝のラジオ番組「暁で一びる」へリクエストを送り地域の方々と歌の歌のプレゼント交換を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体が清潔感を感じられるよう、水回りやふろ場等の清掃や整理整頓に心がけ、共用の場は季節感が5感で感じられるよう季節ごとの壁の装飾を行っている。居室は落ち着いて過ごせるように家具やカーテンの色など配慮し居心地よく過ごせる工夫を行っている。	玄関は小規模と共用で、季節の飾りつけがしてある。布を活かした壁面の飾りやソファーカバーで温かみのある空間作りを工夫している。居間にはテーブル、ソファーがあり入居者は思い思いの場所で過ごしている。台所が近く、調理の音や匂いが五感を刺激し、テラスで食事を楽しんだり、催しの演技を観る事も出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間のフロアでは、目にやさしいベージュのソファーを配置し、ゆったりと休めテラスでは気のあった利用者同士が談笑しながらお茶を楽しめる空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッドや家具が配置されており、本人が使用されていた家具はこれまで通り利用され居心地良い環境つくりを支援している。	ベッドやタンス等は備付けで、家族の写真、ラジオ、クッション、寝具が持ち込まれている。壁には、大きな家族の写真や作品のはり絵が飾ってある。季節の寝具、衣がえは家族に声かけ一緒に行い、居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全室バリアフリーにて居室からトイレ、浴室まで動線が短い。歩行可能にて個々の機能訓練に役立っている。共用のホールから全室見渡すことが出来、安心安全である。		